

# スーパーER 施用方法「お茶」



## 【期待できる効果】

ER-80001

窒素・アミノ酸含有量の増加	初年度の一番茶前からの施用で、窒素含有量が5以上と判定された園が多く、6以上の園もあった
収穫時期の早期化	微生物が活発に活動し、地温が上昇するため、一般園と比較し、ERを施用した園は4~5日以上早く収穫できた
収穫量の増加	一般園が300kg/反の時期に400kg/反の収量があったなど、全体的に収量が多い
茶葉の状態	葉がみるく、瑞々しく、茎が柔らかい。新芽の上部と下部の柔らかさが比較的均一になる
樹勢の向上	土壤環境を整えるため、茶樹自体の樹勢があがり、病害虫に強くなる

## 【基本的な施用】

- 初年度から3年目までの土壤作りがしっかりと出来ていない園への基本的な施用
- 灌水量は土壤環境や樹勢に応じて調整してください。また、土壤作りがしっかりと出来てきた園は、若干回数を減らすことも可能
- 静岡県牧之原市での施用時期ですので、栽培環境により施用時期を調整する必要があります

	時 期	灌水・散布量	希釈倍率
土壤灌水 (葉面にも可)	3月頃 肥料の後	300~500 ℥	1000倍
	4月頃 規制前の芽が2~3枚の頃		
	6月頃 二番茶前(台切りした場合も含む)		
	8月初旬頃 三茶後		
	10~11月下旬までに		

## 【施用のポイント】

- 土壤灌水は降雨の前後に行い、土壤に染み込みやすくするのが良い
- 農薬とは別々の使用が好ましい。殺菌剤との混合は不可
- 一番茶後の台切り後の施用は、土壤に染み込みやすく、短期間で土壤環境を整えやすいので効果的
- 土壤作りがしっかりと出来ていない初年度は、三番茶の芽が2~3枚開いた時に、殺菌剤を使うと病気の被害が出にくい。2年目以降の土壤作りが出来た園は状況により判断が必要
- 土壤環境が整うと作物が本来持つ力が強まるため、極力薬剤の使用が抑えられ、また、健全な根が育ち、肥料分が効果的に吸収されるため、施肥量も抑えられ、資材費を削減することが期待できる
- 施用の際は散布器具の噴口を下向きにして灌水する。その際に茶樹にかかるても良い

## 【費用 1反あたり】

スーパーER 富士のしずく(3ℓ) 34,000円(税別)にて起算

灌水量	倍率	原液量	1回あたり	3回灌水	4回灌水	5回灌水
300ℓ	1000倍	300cc	3,399円	10,197	13,596	16,995
500ℓ		500cc	5,666円	16,998	22,664	28,330